

# ら い 来 ぶ ら り 60

## 特集 “おもしろ事典（辞典）”

面白くてでもためになる

そんなJITENを紹介します



（「ハーブ大百科—中世の庭—」より）

近頃、アロマテラピー（芳香療法）などで話題のハーブ。日本でも昔から料理に使われている、シソや生姜もハーブの仲間です。ハーブは香りがよくその葉・茎・根を利用する植物と思われがちですが、「巨大な熱帯雨林の大木から海藻やキノコ類まで」（本書41p より）と、その範囲は驚くほど広く、また利用法も美容・薬用・食用と大活躍。そんなハーブに興味を持たれた方にお勧めがこの1冊「ハーブ大百科」。ページを開くとく神話や伝説のハーブ>、<世界を変えたハー

ブ>、<ハーブガーデンの設計>などハーブの歴史や実用的な記事が、1000点を越える資料と1500点以上の写真とともに紹介されています。まさに「ハーブの大百貨店」。

ハーブ栽培が始まったのは、約4千年前の古代エジプトからで、太古の昔から人間とハーブは密接な関わりを持ってきました。最初は

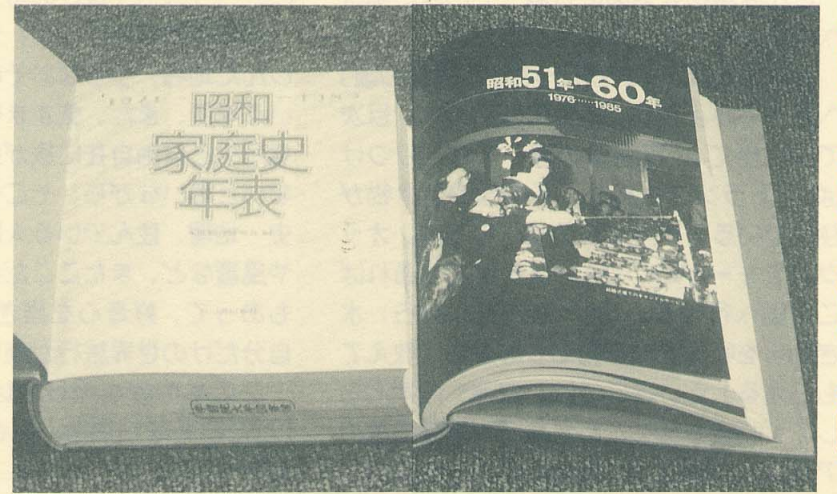
礼拝や儀式のために栽培され始めたハーブ。ハーブが原因で起こったアヘン戦争、コカ・コーラにはハーブが使われていた?!などハーブの違った一面も見せてくれる1冊です。

（和書係 八木橋理智子）

【ハーブ大百科】 英国王立園芸協会  
デニ・バウン著 吉村則子，石原真理訳  
誠文堂新光社 1997

（大図・参考室 614/73）





編集委員が参考図書を選んできた。迷わず、無印良品の本を選んできた。理由は2つある。事実の集積であること。だから、野暮な解説は不要であろう。また、書名が珍しい。家庭史とある。これは「まえがき」で明らかにされる。産業・経済より先に暮らしがあり、政治より先に人間（家庭）があるという考え方にもとづいている。

A5版。594ページ。出典文献230。索引総数約8600。図版や欄外記事（コラム・データバンク）も豊富である。

構成は、年代順・日付順。常に見開き2ページに4つの主題が併記されている。①衣食住②家計・健康・教育③文化・レジャー④社会・交通・一般の4ジャンルである。特にデータバンクが面白い。大正9年と昭和37年の男女の歩幅比較（歩数や速度も）などが載っている。

本書の特徴は何か。読破する参考図書である。小説のように。結果、時代認識の感覚が鋭くなる。例えば、試してみなければ、辺見庸に「もの食う人びと」がある。テーマは飽食と飢餓。普通の本である。しかし、読後、その理解は歴史的に広がる。

ボードレールに「赤裸の心」がある。『いつの日、いつの月、いつの年といわず…』いかなる新聞も…ぞっとするような事どもにつづれ織りでしかない。戦争、犯罪…時代を経た昭和の「家庭史」年表もやはり同じである(?)

(洋書係 鈴木宗一)

『昭和家庭史年表：1926-1989』  
家庭総合研究会編 河出書房新社 1990  
(大図・参考室 210.8/250)

外来語、片仮名語氾濫の昨今、おそらく日常必携の辞典ではないだろう。

しかし「五月蠅い」—こんな語句にぶつかってさて何と読むのやら…そんな時に役立つ辞典だ。(ちなみにこれは「うるさい」と読みます。暑くなり始めた5月頃の群がるハエからの連想で、言いえて妙だとは思いませんか。)

さて、当て字とは漢字の意味に関係なく、その音や訓を借りて当てた言葉のことである。この辞典はその中でも難読語—常用漢字表にない読み方、通常とは異なる読み方の言葉を探録し音引きで編集してある。その音引きも語句の第1字目のみならず、2

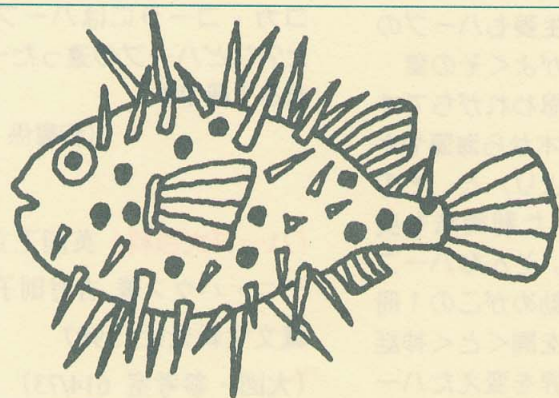
字目以降からでも引けるのが便利だ(巻末に音訓索引、部首索引あり)。

何気なくページを繰っていると、かつて読めないままに放っておいた語句が目に残り—挙解決スッキリしたり、思いがけない読み方に感心するやら納得したり…そんなちょっと物知り気分させてくれる辞典です。

(洋書係 中野里美)

『当て字の辞典：日常漢字の訓よみ辞典』

東京堂出版編集部編 東京堂出版 1991  
(大図・参考室 811/105)

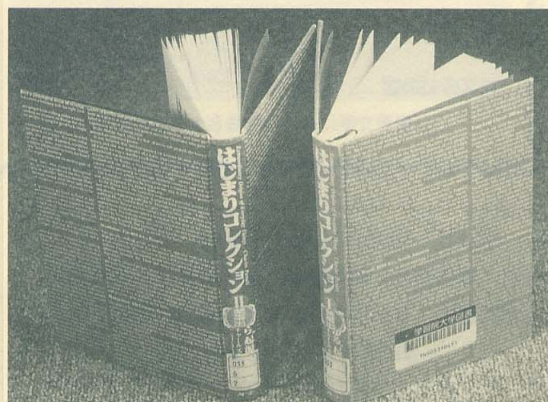


魚虎

はりせんぼん

「針千本」とも。

海魚



『はじまりコレクション』

チャールズ・パナティ著 バベル・インターナショナル訳 フォー・ユー 1989  
(大図・参考室 033/6)

物事には必ず「はじまり」があります。クリスマスや元日、ポテトチップやアイスクリーム、クロスワードパズルにハネムーンなど私たちの生活の中に溶け込んでいるこれらのものも、どこかで誰かが始め、何年もの歳月を経て現在に至っているのです。

こういった疑問に答えてくれるのが『はじまりコレクション』です。

著者のチャールズ・パナティは6年間ニューズウィーク誌の科学関係の編集をしていた事もあり、内容はかなり濃いものとなっていて原書は500項目以上にもわたって

います。

例えば▷ハネムーンは昔、北欧で略奪結婚が行われていた時代の名残である。▷ポテトチップはコックの客に対する腹立ちまぎれの産物である。▷豚の形をした貯金箱は中世の西ヨーロッパに多く見られた粘土“pygg”に由来する…等々。

大学図書館にはこれ以外にも『世界最初事典』(講談社)や『事物珍起源』(平凡社)など起源に関する本があります。ぜひ読んでみてください。ちょっと面白いです。

(逐次刊行物係 北村 誠)



どんな精密な地図にも載っていない場所への旅なんてできるのだろうか。

まず、あのアリスが行った「不思議の国」へ行ってみようか。道案内はこの本。目次で探し当て、「不思議の国」へたどりつけば、「トランプ一組や、その他の生き物が住んでいる、イギリスの地下の王国。オックスフォードの、(略)ウサギ穴を通ればこの国へ行ける。(略)道に迷ったら、水ぎせるを吸っている物知りの毛虫に教えてもらえる」と。ここでは、原著への案内もしてくれるから、ここから『不思議の国のアリス』へ旅立ってもよいかもしい。

「鏡の国」「宝島」「ドラキュラ城」

その他の事典 (辞典)

● 『さようならの事典』  
窪田般弥, 中村邦生編著 大修館書店 1989  
(大図・参考室 154/105)

● 『坂本龍馬大事典』  
新人物往来社編 新人物往来社 1995  
(大図・参考室 210.6/514)

● 『広告キャッチフレーズ辞典』  
奥山益朗編 東京堂出版 1992  
(大図・参考室 674/118)

● 『若者ことば辞典』  
米川明彦著 東京堂出版 1997  
(大図・参考室 813/207)

● 『ムーミン童話の百科事典』  
高橋静男「ムーミンゼミ」, 渡部翠編  
講談社 1996  
(大図・参考室 949.8/3)



(「ムーミン童話の百科事典」より)

「ユートピア」「遊びの町」「オズ」etc.

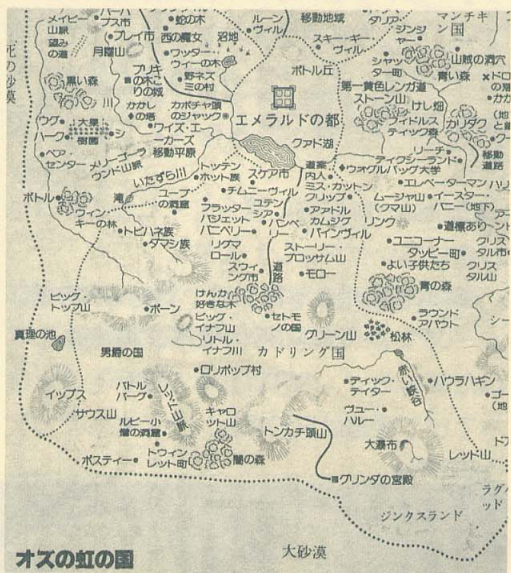
記憶を確かめながら、かつて幼いころ親しんだ地名、今もなおその魅力に惹かれていた場所、また、気ままに思いもかけない場所へと自由自在に旅が始まる。ありもしないと思いながら、そこへの到達方法や歴史・地理、住んでいる人間・動植物、法律や風習など、またここだけにしかない地図もあって、好奇心を掻き立てられながら、自分だけの世界旅行が楽しめる。

この本の扉を開ければ、そこはまさに「どこにもない場所」への旅の入口となるだろう。

(参考係 工藤晶子)

### 『世界文学にみる架空地名大事典』

アルベルト・マングェル & ジアンニ・グアダルーピ著 高橋康也監訳 講談社 1984  
(大図・参考室 903/26)



(『世界文学にみる架空地名大事典—オズ—』より)

来ぶらり No.60 1998年1月1日発行  
発行責任者: 森田道也 編集委員: 藤田美佐子 石井博幸  
学習院大学図書館 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

☎03 (3986) 0221